

景観の基盤 をつくる 公共施設の色彩

7-1 景観の「地」を整える公共施設の色彩

公共施設による景観形成については、奈良県景観条例第18条の規定に基づく「公共事業景観形成指針」を別途定め、推進していくこととしています。

そのため、ここでは、公共施設の色彩についての一般的な考え方とその例を示すこととします。

(1) 地域の景観形成における公共施設的作用

このガイドラインでは、主に民間事業における建築物や工作物の色彩について、その考え方やルールを紹介しています。一方、地域の景観形成にあたって、道路や河川、公共建築物など、公共施設の色彩が果たすべき役割を軽視することはできません。

一般に公共施設は規模が大きく、かつ長期間にわたるものです。また、多くの県民が日常的に接し、来訪者にとっては地域の第一印象に影響を与える要素になります。こうしたことから公共施設の色彩は、地域の景観の基盤を整える役割を担っているといえます。

(2) 関係機関の連携と調整

ひとつの公共事業には、関係部課をはじめ、国、県、市町村など、様々な機関が関わりをもちます。また、民間との連携が必要となる場合も少なくありません。公共施設の色彩選定にあたっては、こうした様々な関係機関の連携や調整が不可欠です。公共建築物と周辺の広場や街路の調整、道路整備における舗装材と柵やポール、歩道橋などの調整、河川整備における護岸と柵、遊歩道の調整など、多くの機関が情報を交換し、将来像を共有しながら整備を進めていくことにより、空間を構成する様々な要素が違和感なく一体化した、景観の基盤と呼ぶにふさわしい質の高い公共施設を整備することができます。

(3) 際だつ色彩からなじむ色彩へ

従来、公共施設の整備に際しては、その存在を顕示することが重視され、結果として地域の景観から際だつ意匠や色彩が選定されるケースが見られました。このようにして整備された公共施設は、目新しさから一時的には魅力的なものとして受け入れられますが、すぐに飽きられてしまうばかりでなく、永い時間をかけて形成されてきた地域の景観を混乱させる要因にもなってきました。

公共施設は建築物や橋梁のように同じ場所にあり続けるものや、道路や河川のように継続的に整備・改修が繰り返されるものなど、時間的にも空間的にも地域の景観に大きな影響を与えます。こうした公共施設の特性をふまえると、その色彩は周辺の景観から際だたせることよりもむしろ、地域の歴史や自然、既存の街並みなど、その場に蓄積されてきた景観になじませ、景観の「地」として、場の雰囲気を整えるべきものであるということが出来ます。

道路の舗装材を地域の土色に合わせて整備したり、緑豊かな山間地で積極的に間伐材を用いるなど、県内の景観整備でも多用されている方法は、こうした「なじむ色彩」の好例です。



01・02 現代的な街並みにも歴史的街並みにも
違和感なくなじむ脱色アスファルトの色彩
(10YR6.0/2.0程度)

青丹よしふるさと奈良の
色彩景観

ガイドラインの
位置づけと活用方法

色彩景観の
基礎知識

美しい色彩景観を
守り育てていくために

景観計画区域の
色彩基準

重点景観形成区域
の色彩基準

景観の基盤をつくる
公共事業の色彩

店やまの雰囲気伝える
屋外広告物の色彩

豊かな風景を支える
身近な暮らしの色彩

7-2 街並みになじませる

(1) 歴史的街並みとその周辺における公共施設の色彩

歴史的街並みの色彩景観は、いぶし瓦の屋根、しっくいや土壁、木材の外壁、塀など、ごく低彩度の穏やかな配色で構成されています。公共施設はこのような穏やかな配色に配慮した色彩を用いることが大切です。

観光誘致などの目的で派手な意匠が用いられた施設も見られますが、観光の動機付けは、公共施設の存在ではなく、地域が育んできた歴史的な風土にあることを理解し、そうした風土になじむ配色を検討するとともに、規模や材料などについても周辺になじませる工夫を採り入れることが大切です。

また、舞台セットのような表面的な演出ではなく施設本来の役割を考慮し、永い時間を経ても陳腐化することのない、普遍性のあるデザインや色づかいを心がけるようにしましょう。



- 01 街並みに違和感なく溶け込む舗装や標識柱
—宇陀市
- 02 歴史的街並みにあわせて土壁を採用した
公衆トイレ—桜井市
- 03 郡山城に近接する立地を考慮したホール
—大和郡山市
- 04 周囲の建築物と色彩や材料、スケール等を
あわせた公共施設—五條市

(2)新しい街並みとその周辺における公共施設の色彩

市街地再開発や住宅団地、工業団地の開発など、新しいまちづくりにおいて、公共施設のデザインや色彩は、地域の方向性を先導していく要素のひとつになります。新たに整備される建築物等と材料や色づかいをそろえたり、クセのない普遍的なデザインの製品を採用するなど、質が高く持続可能な色彩景観の形成を心がけることが大切です。

また、新しいまちづくりにおいても、地域から遊離した色彩ではなく、地域の歴史的蓄積を大切に、周辺の街並みとも違和感が少ない落ち着いた色づかいを基本とすることが必要です。

- 01 金属の質感を生かして先進的なイメージを表現した柵などー奈良市
- 02 公共建築物の整備にあわせて明るく落ち着いた色彩で設置された歩道橋一斑鳩町
- 03 コンクリートの素材色や暖色系の低彩度色を基調とした図書館一上牧町
- 04 街のアクセントにあわせて深緑色を採用した照明柱一生駒市



7-3 自然になじませる

(1) 変化する自然の色彩を美しく見せる公共施設の色彩

自然の色彩の中には、空や植物の緑、花などのように季節や時刻、天候などにより変化するものと、土や岩、樹皮などのように年間を通してほとんど変化しないものがあります。自然景観の中では変化しない色彩が変化する色彩を引き立て、その効果によって季節や時間の移ろいが色濃く感じられる趣のある景観がつけられています。

自然景観における公共施設の色彩は、年間を通して同じ場所にあり続けるものであり、土や岩、樹皮などのように景観の「地」になるような彩度を抑えた色彩を選択することが基本です。

(2) 橋梁や護岸等の色彩

自然が色濃く残された五條・吉野地域など、周囲を深い緑で囲まれた橋梁等は豊かな自然の色彩と調和を図る必要があります。現状、塗装仕上げによる鋼橋では赤や青などの高彩度色も見られますが、周辺のランドマークとなるような特殊なケースを除いては、周囲の緑と調和する穏やかな色調を選択することが基本といえます。また、護岸は地場の石材などを用いるなど、色彩だけでなく素材の面からも地域の景観と調和を図ることが期待されます。

(3) 舗装や道路上工作物の色彩

道路舗装は、アスファルトの灰色が基本となっています。この色彩はほぼ無彩色であり、景観に与える影響が少ない色彩といえます。舗装材に色をつける場合は、かつての道路が土や石畳で舗装されていたように、地域の土色にあわせたり、地場の石材を用いるなど地域の景観に溶け込むような工夫を採り入れます。また、安全面の機能を確保した上で、柵や柱などの工作物はダークブラウンを採用すると違和感が少ない道路景観を形成することができます。

01 間伐材を有効利用した自然な印象の護岸—御杖村

02 自然景観とも違和感がない溶融亜鉛メッキ仕上げの落ち着いた高欄—三郷町

03 灰色の色彩が周囲の緑を引き立てるアーチ橋—五條市

04 木材を使った転落防止柵—明日香村

05 樹林地に融和する茶色の電柱と反射材—宇陀市

06 近隣の民家にも用いられている木材をふんだんに使ったホール—黒滝村



01



02



03



04



05



06

店やまちの雰囲気 を伝える 屋外広告物の色彩

8-1 一つひとつの広告物が伝えるまちの雰囲気

(1) 見慣れた日常景観を見直すことから

駅周辺の繁華街や幹線道路の沿道には、屋外広告物の派手な色彩が溢れています。地域に暮らす人、通勤や通学でたびたび通りかかる人たちには見慣れた景観でも、県外からの来訪者にとって派手な広告物が林立する様子は、歴史や文化のイメージが強い「奈良」とは結びつきにくい色彩景観だといえます。

屋外広告物の色彩も景観を構成する重要な要素であり、まずは、見慣れてしまった日常の景観を見直し、地域に暮らす人や地域を訪れる人たちのニーズに合った、奈良らしい色彩景観を育んでいくことが大切です。

(2) 地域特性に応じたデザインで地域イメージを育む

建築物のデザインや色彩に地域性が求められるように、屋外広告物にも場の雰囲気にふさわしいデザインや色彩が必要です。

繁華街には一定の賑わいが必要でも、住宅地や歴史的街並みに同じような色彩が持ち込まれると、その雰囲気は台無しになってしまいます。住宅地や歴史的街並みには華やかさではなく、むしろ落ち着きや風格を表現する色づかいが必要です。

どこでも同じ表現ではなく、場所の特徴を捉えて色彩や材料、大きさなどを使い分け、メリハリのある表現で地域のイメージを育んでいくことが大切です。



Point 地域対応のCIカラー



CI（コーポレートアイデンティティ：企業の独自性）カラーは、企業の視覚表現を統一し、企業イメージを明確にする役割を担っており、経営戦略上大切な色彩といえます。一方、CIカラーは企業イメージを端的に表現する必要性から、彩度の高い鮮やかな色彩を採用しているケース多く、CIカラーを印刷物やwebなどに用いることは大変効果的ですが、CIカラーをそのまま建築物や大型の屋外広告物に用いると、企業のイメージは保たれても、事業の基盤となっている地域のイメージが損なわれることがあります。

近年では、企業の社会的責任を強く意識し、地域のルールに則った経営が求められるようになり、単一の派手なCIカラーに固執することなく、地域のイメージに合わせて柔軟なCIカラーの運用を行う企業が目立って増えてきました。

企業も地域のメンバーとして、美しい景観づくりに参加し、地域の価値を高めていくことが求められる時代になっています。

青丹よしふるさと奈良の色彩景観

ガイドラインの位置づけと活用方法

色彩景観の基礎知識

美しい色彩景観を育んでいくために

景観計画区域の色彩基準

重点景観形成区域の色彩基準

景観の基盤をつくる公共事業の色彩

店やまちの雰囲気を伝える屋外広告物の色彩

豊かな風景を支える身近な暮らしの色彩

8-2 奈良の魅力を伝える深い色

(1) 深みのある藍染め・草木染めの色

奈良らしい屋外広告物の色彩表現のひとつに古くからのれんなどに用いられてきた藍染めや草木染めなどの深みのある色彩が挙げられます。

落ち着いた色彩が基調となっている奈良の街並みでは、派手な高彩度の色づかいではなく、明度や彩度を抑えた色づかいでも十分に目をひき、単に目立つばかりでなく、風格のある色彩表現を行うことができます。

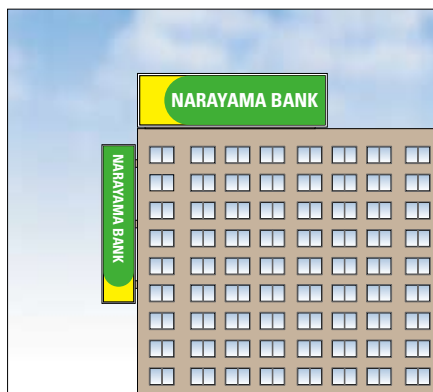
(2) 同じ色相でも明度・彩度を抑え、色数を減らしてシンプルに

多くの企業がCIカラーを導入しています。近年では、服飾や飲食のチェーン店など全国展開の企業でも、落ち着いた色調のCIカラーを導入するケースが増えてきました。

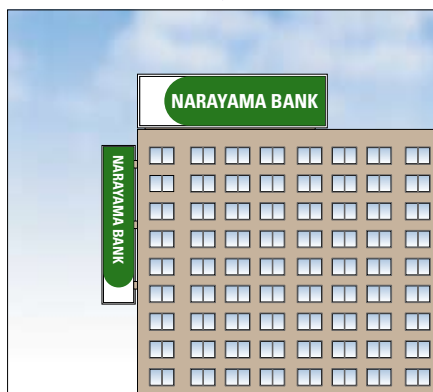
鮮やかな色彩を用いたCIでも、基調色である赤や青、緑などの色相は変えずに、明度や彩度だけを調整して深みのある色彩にすることにより、CIのイメージを大きく損なわずに、奈良の景観に調和しやすい風格のある表現とすることが出来ます。また、多色使いではなく色数を絞り込むと色彩の効果が増大し、印象に残りやすいデザインになります。

01 通常のCIカラーよりも明度彩度を抑えた
広告物—奈良市

02・03 風格のある染め物の色
—橿原市・宇陀市



CIカラーの色相は変えることなく、明度や彩度、色数を抑えるだけでも奈良らしい表現になります



8-3 CIカラーを活かした落ち着いたデザイン

(1) 鮮やかな色彩は小さく効果的に

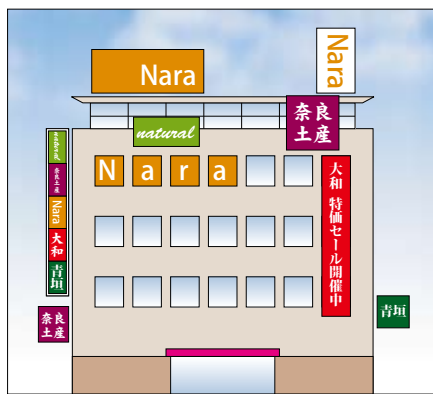
鮮やかな色づかいの広告物が林立する景観は、けばけばしく落ち着いた印象を与えるばかりでなく、交通標識や信号などの視認の妨げとなり、安全面でも支障を来すものです。

自然景観の中で花や蝶、紅葉などの鮮やかな色彩が、小さな面積や動く要素に用いられているのと同様に、CIカラーなどの鮮やかな色彩は、来訪者の目に入りやすい場所に限って小さく効果的に用いるようにしましょう。

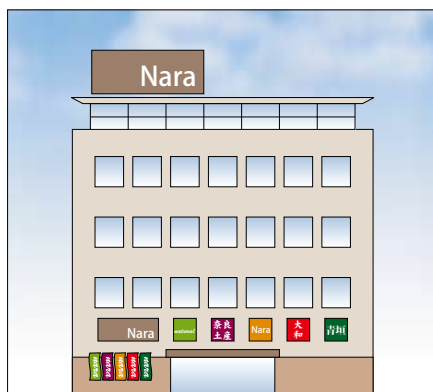
(2) 広告物の高さや大きさをそろえてわかりやすい情報伝達を

ドライバーや来訪者は、わずかな時間の中で屋外広告物の中から必要な情報を読み取らなければなりません。鮮やかな色彩が様々な場所や大きさと用いられると混乱を生じ、屋外広告物本来の役割である的確な情報伝達ができなくなってしまいます。屋外広告物の高さや大きさなどをそろえ、人の目につきやすい低層部に集約して掲出するなど、秩序ある情報伝達を行うことにより、景観面でも落ち着いた表情を創り出すことができます。

- 01 鮮やかな赤のCIカラーを効果的に用いた店舗
— 桜井市
- 02 赤いクリップを象徴的なサインとした
文具店— 他都市
- 03 CIカラーの周囲に白地を設け鮮やかな
色の面積を絞り込んだ例— 他都市



鮮やかな色の面積を絞り込んだり、位置や大きさをそろえることで効果的な情報伝達が可能になります





- 01 地域の歴史や産業を端的に伝える広告物—宇陀市
- 02 緑青色の風格ある広告物—吉野町
- 03 奈良漬の樽を生かしたユニークな広告物—宇陀市
- 04 牛乳缶をモチーフにした楽しいデザイン—五條市
- 05 麻布に墨文字のシンプルで力強い表現—吉野町
- 06 手作り感のある暖かい広告物—明日香村
- 07 コンクリートにも映えるシンプルな配色—宇陀市



01



02



03



05



04



06



07

8-4 地場の伝統を生かした奈良らしいデザイン

(1) 風格のある木製の看板や扁額

奈良県には数多くの歴史的街並みがあり、こうした街並みでは地場の伝統を生かした地域性豊かな看板が多数見受けられます。永い時間を経て風格を増した木製の看板や扁額は、街並みを特長づける格好の被写体になっています。また、新しいものの中にも伝統を継承し、街並みとの調和を図った例が多数生まれています。

(2) 遊び心が感じられるユニークなデザイン

屋外広告物には、商品のイメージを端的に伝える機能が求められます。奈良漬の樽や牛乳の缶をそのまま看板に仕立てた広告物などは、わかりやすさの中に遊び心が感じられる楽しいデザインの一例です。

(3) 白地や木地に墨文字のシンプルな配色

奈良県は墨の生産地としても知られています。白地や木地を背景に黒の墨文字で店名等を配したシンプルな配色は、奈良らしさを端的に表す表現手法といえます。

こうしたシンプルなデザインは、歴史的街並みの広告物や伝統産業の広告物に限らず、駅周辺や幹線道路沿道など奈良の様々な場所で生かしたい「地域のデザイン」です。

豊かな風景を支える身近なくらしの色彩

9-1 豊かな風景は一人ひとりの創意と思いやりから

景観形成を考える上で大切なのは、大きな建築物や屋外広告物などの色彩ばかりではありません。

日々の暮らしの中にあるちょっとした色彩がその場所の雰囲気を変え、景観を豊かなものに行っていることがたくさんあります。一方で、ほんの小さな色彩のせいで場の雰囲気が台無しになってしまう場合もあります。

奈良らしい風情のある豊かな色彩景観は、一人ひとりの創意工夫や奈良を訪れる人たちへのもてなしの心、地域の人たちへの思いやりから生まれるものです。

9-2 住宅等の色彩

家を建てる時や家を選ぶとき、敷地や間取りと同じようにその色彩を比較検討することはとても楽しいことです。

住宅は個人の資産であることから、ともすると個人の価値観だけが優先した色彩選択につながりがちです。しかし、建物外部の色彩は近隣の住民が日常的に目に触れるものであり、より多くの人にとって資産と感ぜられるような色彩を選択する方が、住む側にとっても、また、売る側、貸す側にとっても利益になります。

県内の住宅地では、多くの住宅が暖かく落ち着いた暖色系色相の低彩度色を基調としています。また、歴史的街並みや山の辺の田園などでは古くから継承されてきた、しっくい壁や木材の腰壁、いぶし瓦の屋根などが、今日でも外装材料の定番として用いられています。

住宅等の色彩を計画する際にはこうした色彩を基本とし、個人の好みが強くなる色彩は、よりプライベートなインテリアで楽しむようにしましょう。



01 背景の山並みと融和した統一感のある住宅地—奈良市青山住宅

02 連続性の中にも適度な幅がある住宅地—三郷町

03 いぶし瓦の屋根並みが風格のある景観のポイントとなっている田園—桜井市

Point いぶし瓦の暖かい灰色



都市化が進んだ市街地から五條・吉野地域の山間地まで、奈良の住宅によく用いられる建材のひとつに「いぶし瓦」が挙げられます。いぶし瓦の色彩は、一般に灰色と表現されますが、窯変による色彩が表面に現れ、わずかに黄色みを帯びた「暖かい灰色」であることに特徴があります。また、歴史的ないぶし瓦は、一枚一枚に焼き斑があり、時代の重みや風格を感じさせてくれます。

遠景においては、背景となる山並みに違和感なく溶け込み、近景においては伝統に裏打ちされた風格のある表情をつくる。「いぶし瓦」の「暖かい灰色」は奈良を代表する美しい色彩のひとつです。

屋根材の選定にあたっては、いぶし瓦を採用したり、いぶし瓦に色調を合わせるなど、地域の伝統に立ち戻ってみることも大切です。

青丹よしふるさと奈良の色彩景観

ガイドラインの位置づけと活用方法

色彩景観の基礎知識

美しい色彩景観を守り育てていくために

景観計画区域の色彩基準

重点景観形成区域の色彩基準

景観の基盤をつくる公共事業の色彩

店やまちの雰囲気を伝える屋外広告物の色彩

豊かな風景を支える身近なくらしの色彩



9-3 暮らしの色彩

(1) 季節を彩る色、伝統産業の色

地域固有の暮らしぶりが反映された景観は、見る人に郷愁と感動を与えます。日々の暮らしの中にある奈良の伝統を見直し、景観づくりに活かしていくことが大切です。

(2) もてなしの心を伝える色

奈良を訪れる人を温かく迎えるもてなしの色彩も大切な彩りのひとつです。大きな看板や派手なのぼり旗のように派手さを競うのではなく、人の手がかかった温かい色づかいによって心に残る景観をつくるのが大切です。

(3) 引き算でつくる色彩景観

現代の都市には色彩が溢れています。引き算の発想で派手な色を見直し、景観の中にほどよく収める色づかいを心がけることが風情ある景観をつくるポイントです。

- 01 軒先の干し柿が秋を告げる景観—斑鳩町
- 02 冬の風物詩となっている竹干し—生駒市
- 03 店先の小物が雰囲気をつくる店舗—奈良市
- 04 道行く人を楽しませる店先の演出—高取町
- 05 小さなおいをつくるハンギング—明日香村
- 06 緑陰をつくる豊かな庭木—斑鳩町
- 07・08 建物のデザインと一体化した室外機や電気メーター—今井町
- 09 落ち着いた色調の自動販売機—斑鳩町
- 10 養生シートを青色から茶色に変更した工事現場—他都市



01



03



06



07



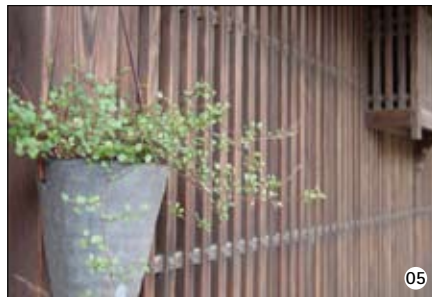
04



08



02



05



09



10

参考資料 景観色彩調査の結果概要

本書で解説している奈良県景観計画・色彩基準は、県内各所の自然や街並みなどの色彩調査の結果をふまえて策定したものです。

ここでは、色彩基準の根拠となっている奈良県の色彩景観の現況について、実態調査結果の一部を抜粋して紹介します。

自然景観要素の色彩

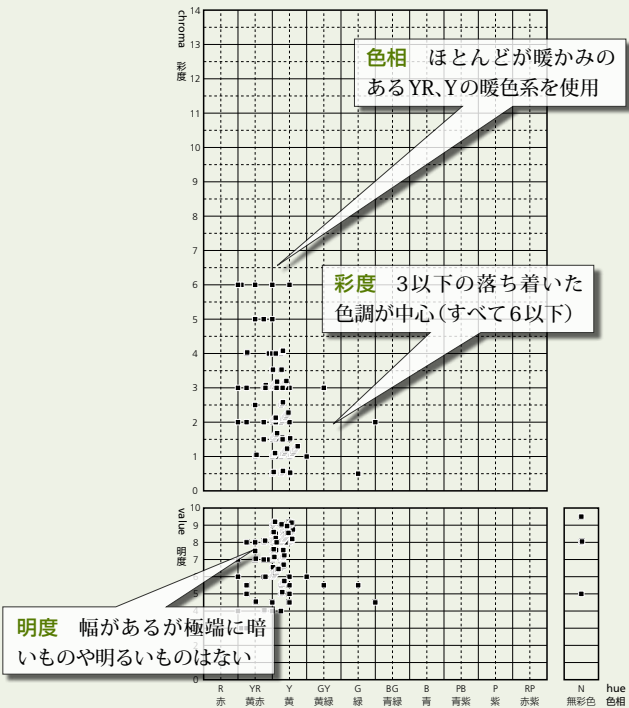
奈良県の色彩景観形成にあたっては、景観の骨格ともいえる山並みや河川などの自然景観要素の色彩を尊重することが大切です。県では、自然景観の色彩を生かしたうまいある景観の形成を進めていく手がかりとして、四季を通じた自然景観の定点観測や緑・土などの色彩計測調査を実施しました。

要素	色彩の状況	具体例(写真)
植物の緑 (季節変動)	<p>色相：四季を通してGY(黄緑)系を中心とした色相に分布しています。 落葉樹は秋季の紅葉時にY(黄)系やR(赤)系色相域に変化します。</p> <p>明度：おおむね3～7程度までの明度の幅があります。 冬季は常緑樹のみのデータとなるため全般にやや暗めの色彩が中心となります。</p> <p>彩度：彩度は季節変動が大きく、冬季の2前後(常緑樹)に対し、秋季の14程度(ヤマモミジの葉)までの幅があります。 夏季の安定した緑は常緑樹で4、落葉樹で6程度です。</p>	 <p>常緑樹の葉は彩度4、落葉樹の葉は彩度6程度の鮮やかさです</p>
植物の緑～山並み (視点距離による変動)	<p>色相：植物の葉の色彩はGY(黄緑)系色相を中心としています。 距離が離れると空色と同化するB(青)系色相に変化します。</p> <p>明度：近景による緑は3～7程度の明度域を中心としています。 距離を隔てることにより、山並みが明るい空に同化し、より明るさが増していきます。</p> <p>彩度：近距離の緑よりも、空気層を隔てて眺遠望する山並みの方が低彩度化し(白っぽくなる)墨絵のような淡い色調で捉えられます。</p>	 <p>2.5PB7.0/6.0 5.0B8.5/0.5 10.0BG6.5/1.0 7.5GY3.0/2.0 5.0BG5.5/1.5 5.0GY3.0/4.0</p> <p>近くの緑から遠くの山並みまでグラデーションが続きます</p>
岩石・土壌等	<p>色相：YR(黄赤)系、Y(黄)系を中心に分布しますが、赤岩渓谷や春日山など、一部の地域では赤みの強い特徴的な色彩の岩石・土壌等も見られます。</p> <p>明度：一般的には、明度4～6前後が中心となっています。 屯鶴峯のように白に近い明るい白色凝灰岩が基調となっている特異な地域もあります。</p> <p>彩度：全般には彩度5～3程度の適度な色味をもった土壌等が中心となっています。 春日山やかざろひ万葉の丘など、一部の地域では赤く色味の強い土が見られます。</p>	 <p>ほとんどの岩石や土壌はYR、Yなどの暖色系色相です</p>

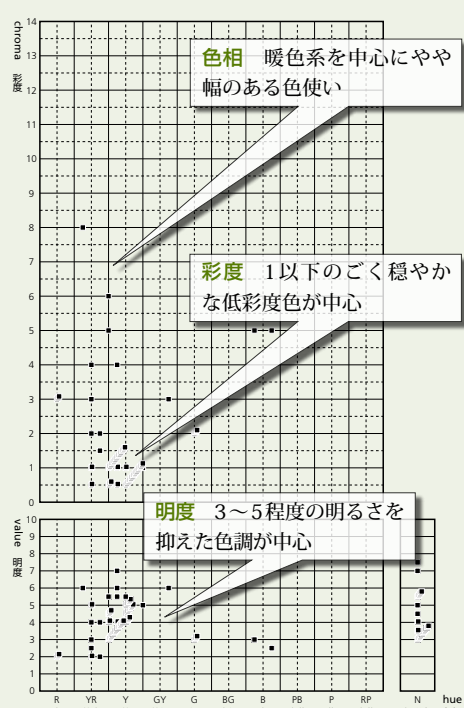
住居系地域の街並み

ほとんどの住宅等が暖色系色相で彩度6以下の色彩を基調としています

(1) 建築物等の外壁基調色



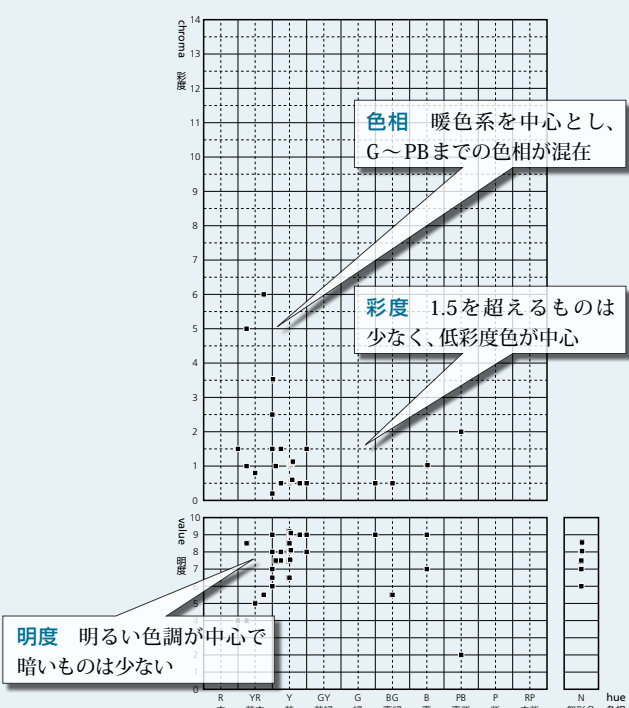
(2) 建築物等の屋根基調色



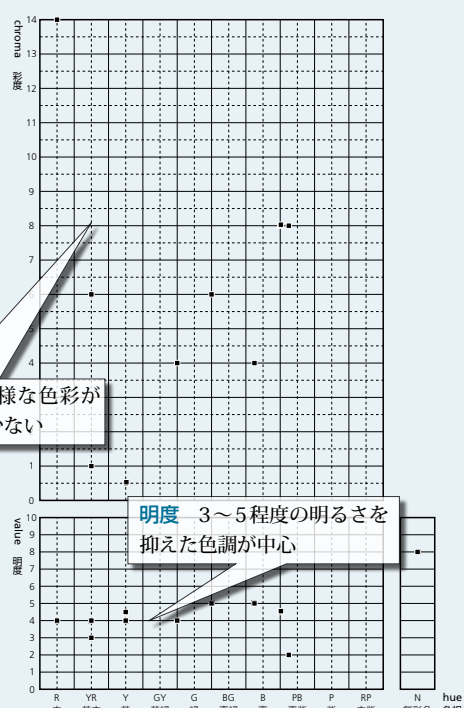
工業系地域の街並み

グレイ系を中心に色味を抑えた明るい色彩が基本になっています

(1) 建築物等の外壁基調色



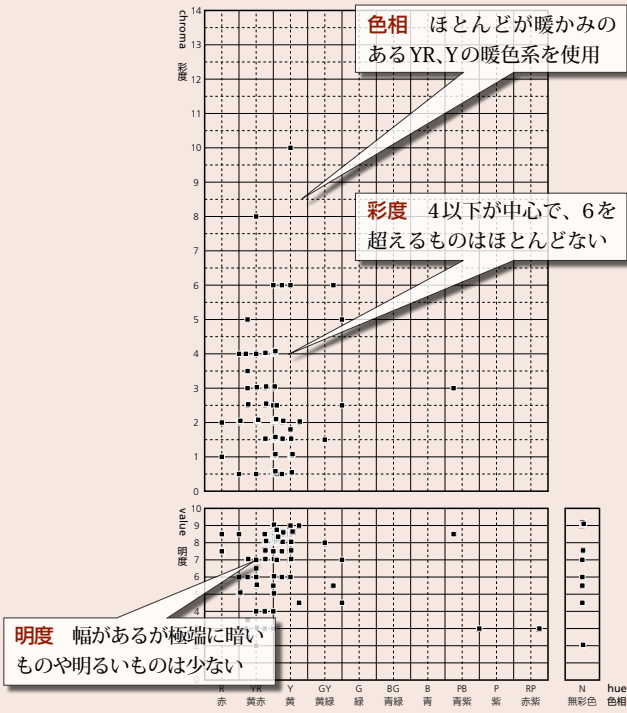
(2) 建築物等の屋根基調色



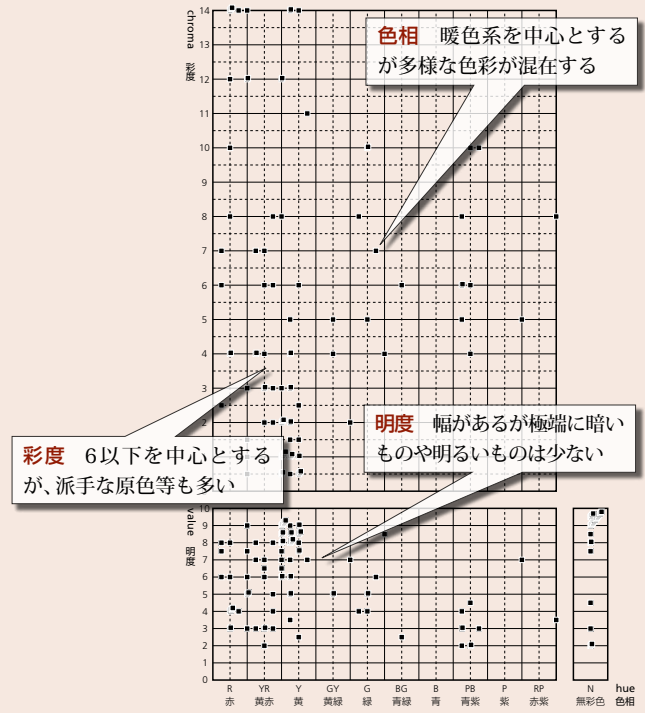
商業系地域の街並み

主要駅周辺などの市街地では落ち着いた色彩が基本となっていますが、幹線道路沿道などには派手な色彩もみられます

(1) 主要駅周辺の建築物等の外壁基調色



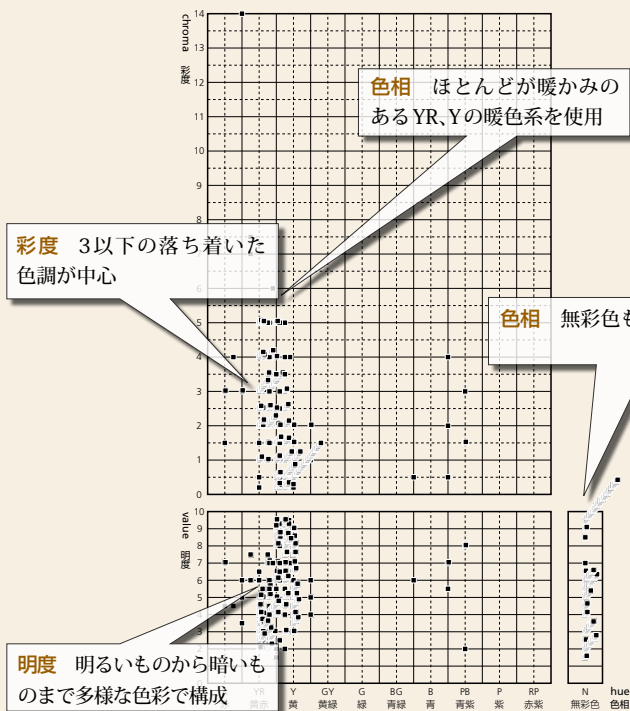
(2) 幹線道路沿道の建築物等の外壁基調色



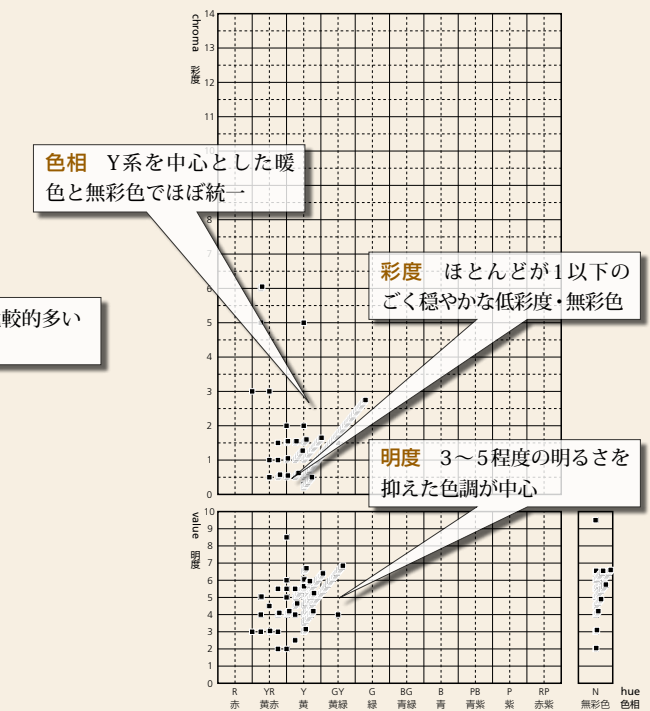
自然系地域の街並み

自然の木材や石材とも共通する暖色系色相の低彩度色が基本となっています

(1) 建築物等の外壁基調色



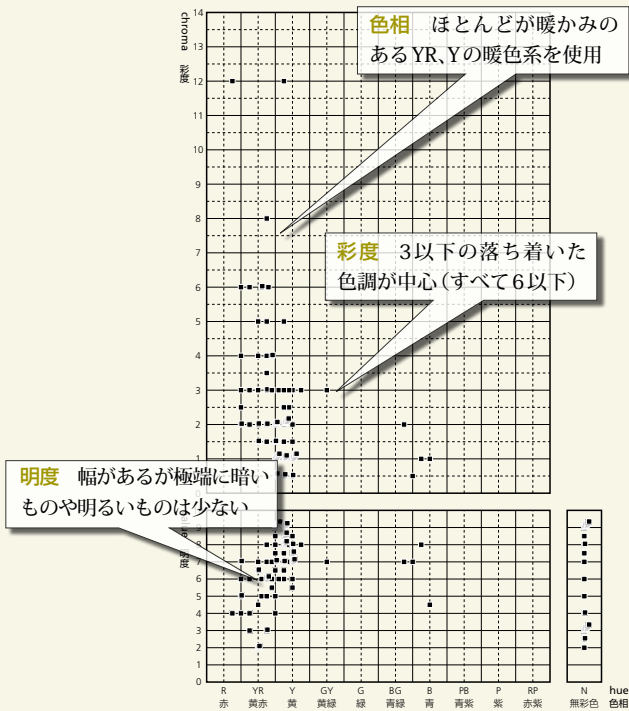
(2) 建築物等の屋根基調色



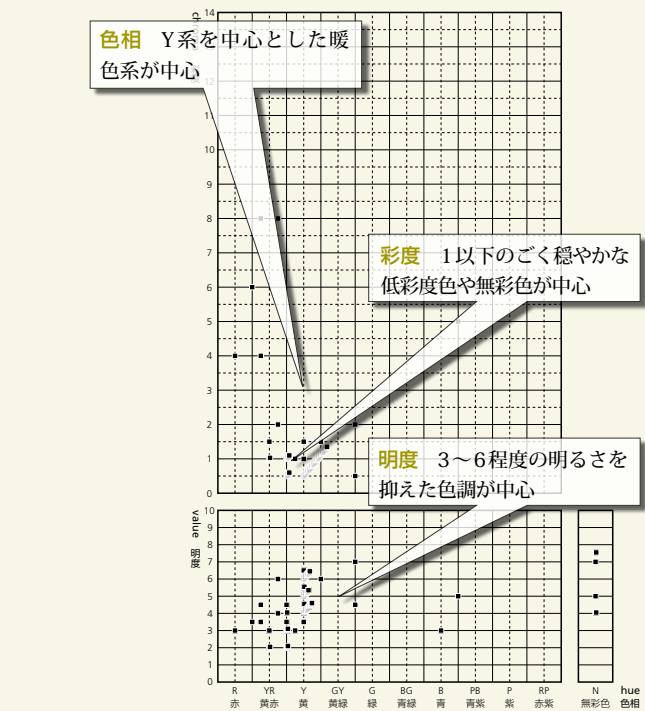
景観形成重点区域(第1種特定区域)の街並み

暖色系色相中心の落ち着いた色彩が基本となっていますが、一部の店舗等には派手な色彩もみられます

(1) 建築物等の外壁基調色



(2) 建築物等の屋根基調色



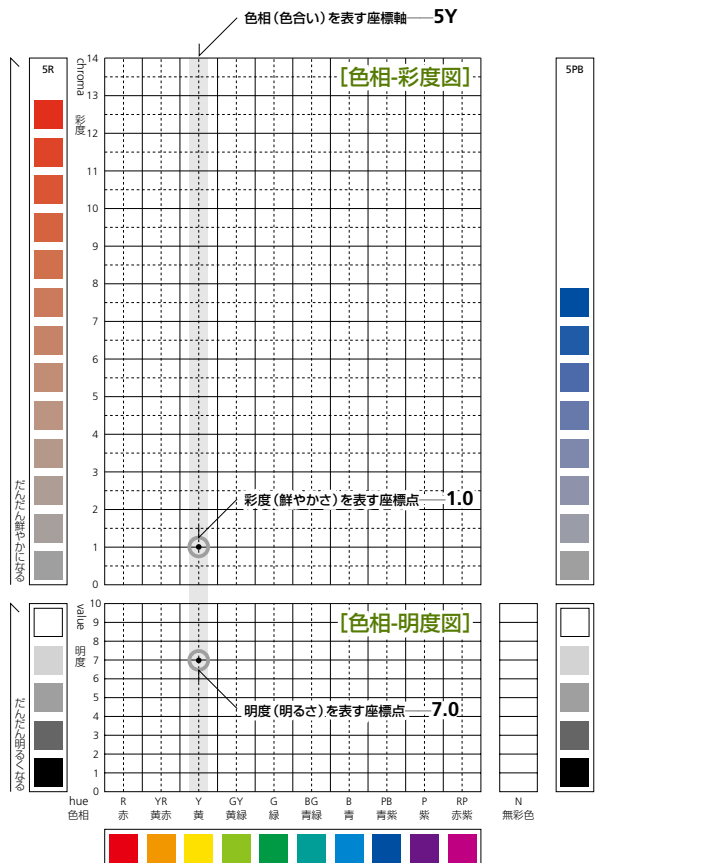
●マンセル表色系による色彩分布図について

ここでは、現地調査によって得られた建築物等の色彩(マンセル値)を色彩分布図に変換し、各景観類型における色彩の分布状況や傾向等を分析しています。

色彩分布図は、色相、明度、彩度という3つの属性によって表される色の分布を、二次元の平面に置き換えてグラフ化したものです。

このため「色相-明度図」と「色相-彩度図」の2つの図から成り立っており、2つの点で1つの色彩を表します。

例えば、5Y 7.0 / 1.0というマンセル値は、左の図のように表します。



■図 マンセル表色系による色彩分布図の見方

奈良県景観計画・色彩基準解説書 | 奈良県景観色彩ガイドライン | *The Color Scope Guidelines for NARA*



発行年月——平成21年5月

発 行——奈良県 暮らし創造部 景観・環境局 風致景観課

〒630-8501 奈良市登大路町30番地

tel.0742-22-1101 (代表)

ホームページ : <http://www.pref.nara.jp/fuchi/keikan/>

(風致景観課) tel.0742-27-8756 (直通) e-mail:fuchi@office.pref.nara.lg.jp

調査編集——株式会社カラープランニングセンター



奈良県